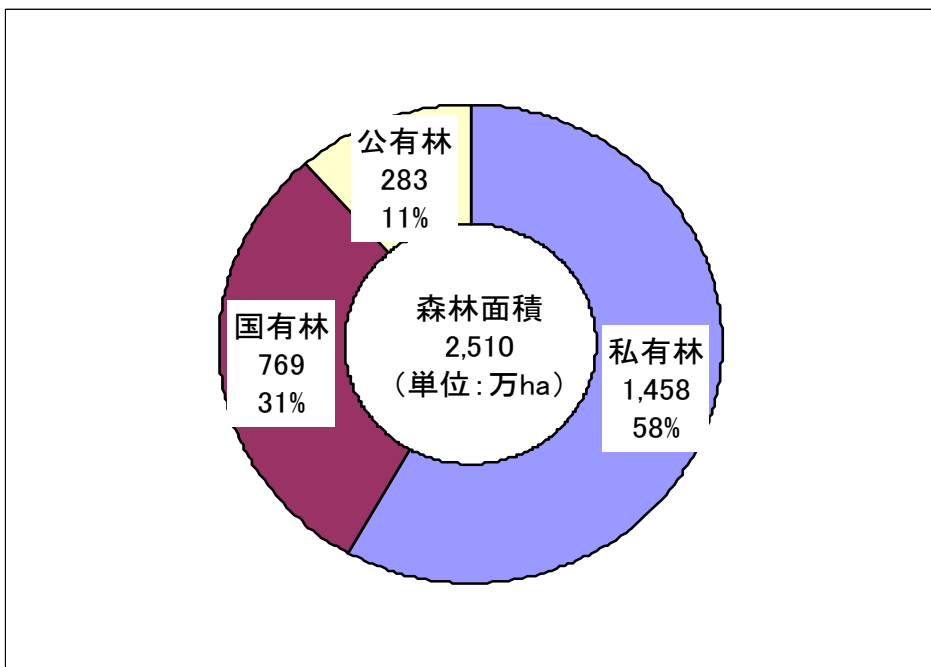
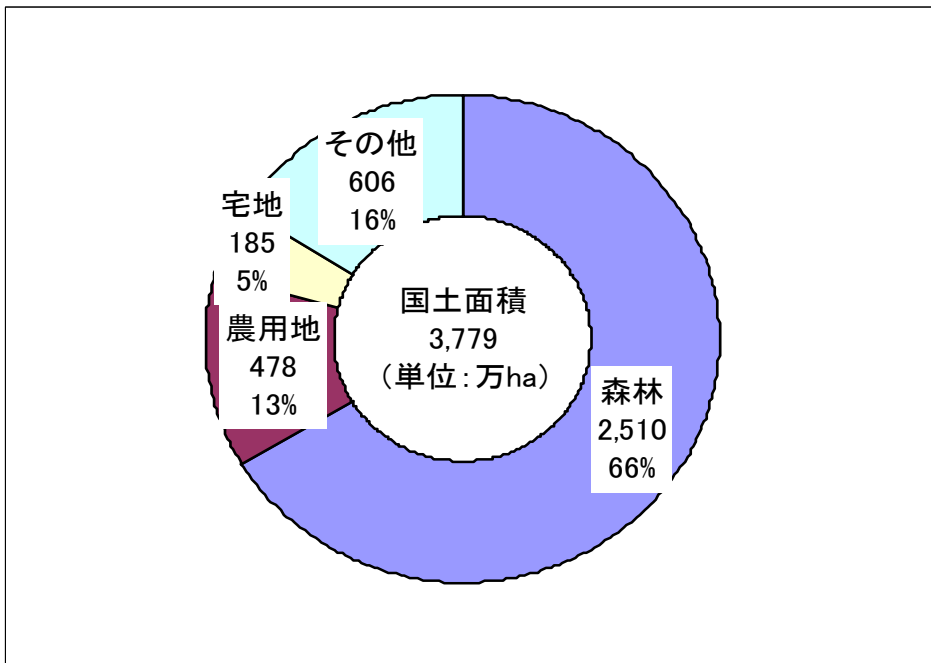
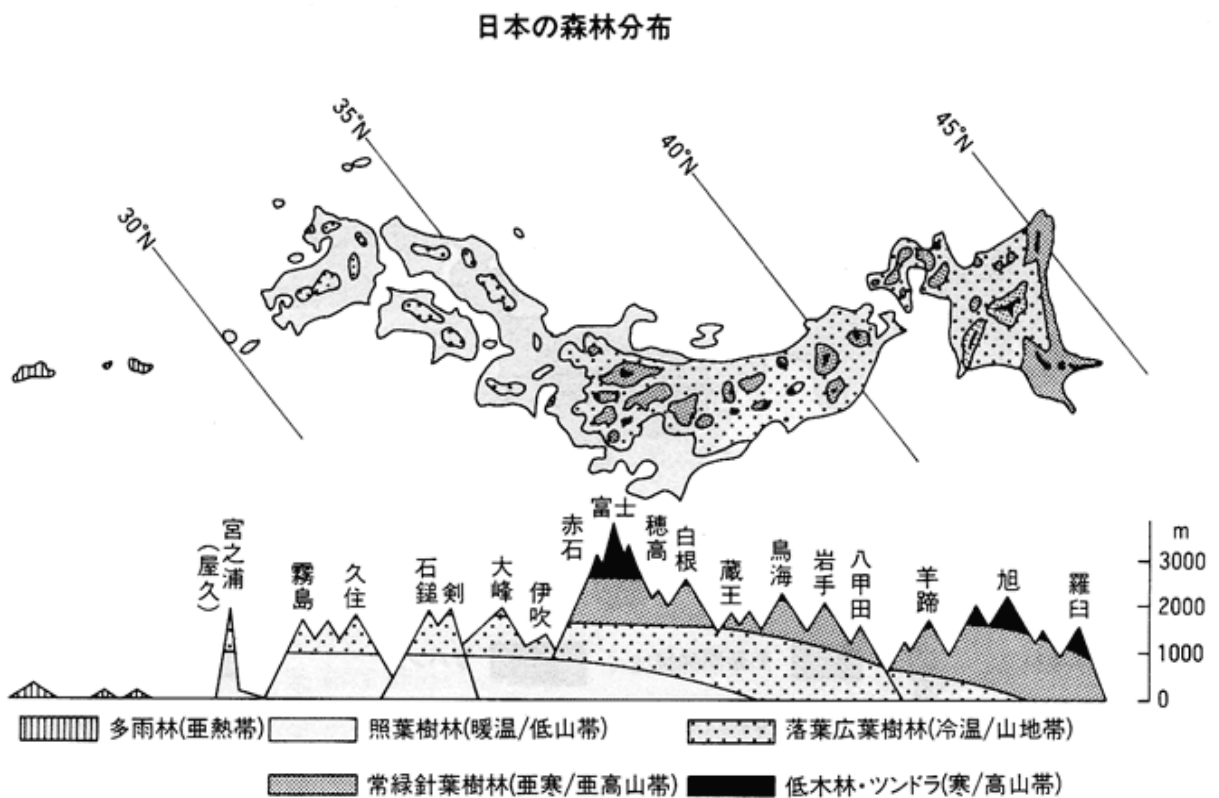


(参考 1) 国土面積と森林面積の割合



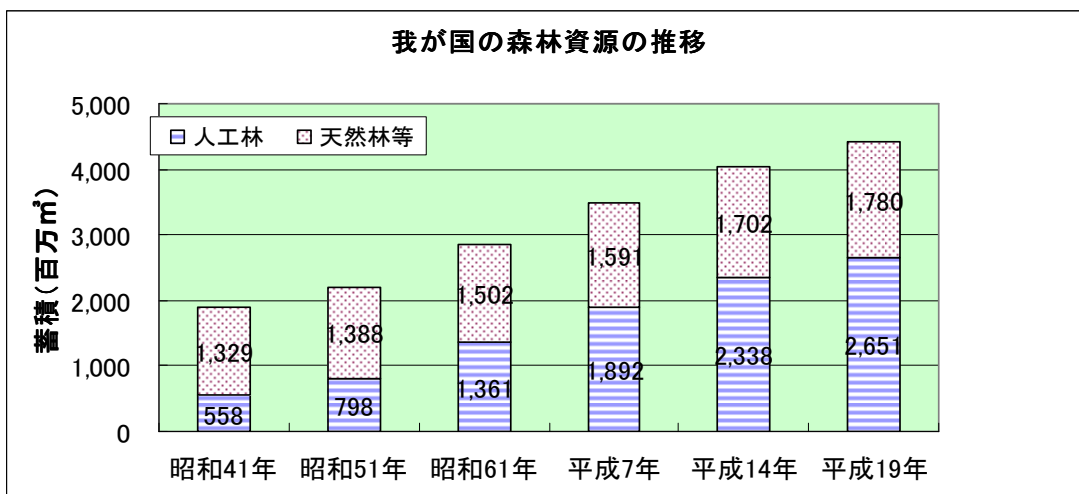
出典：国土交通省「平成 19 年版 土地の動向に関する年次報告」、林野庁「第 1 回森林・林業基本政策委員会資料『森林・林業を巡る情勢』（平成 22 年 2 月）」

(参考2)



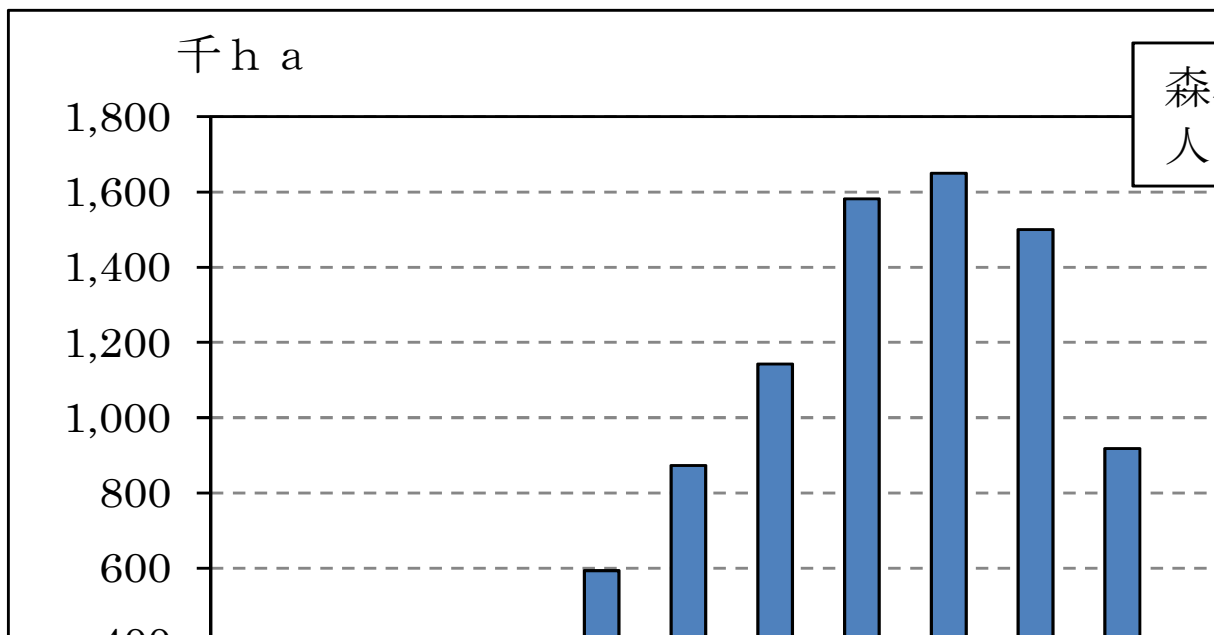
出典：森林・林業学習館

(参考3)



出典：林野庁「第1回森林・林業基本政策委員会資料『森林・林業を巡る情勢』（平成22年2月）

(参考4) 人工林の齢級別面積

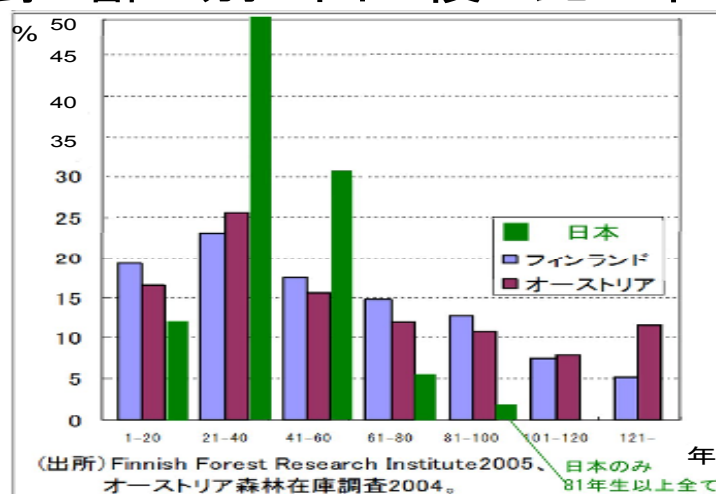


出典：林野庁HP「森林資源の現況（平成19年3月31日現在）」をもとに作成。

(注) わが国の人工林は森林面積の4.1%。齢級とは、樹木の年齢を5年分まとめたもので、例えば、3齢級は11～15年生までを言う。

(参考5)

フィンランド・オーストリア・日本の樹齢別面積比率比較

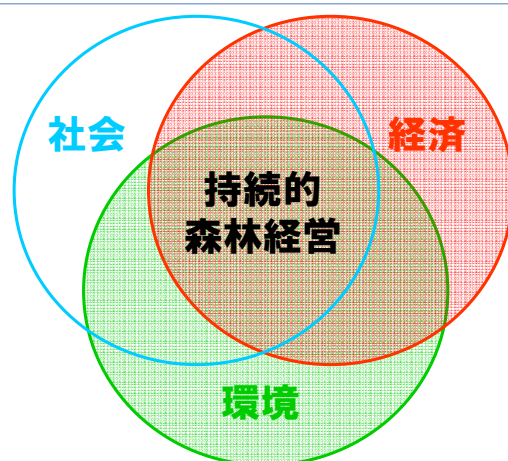


(注) グラフは左からフィンランド、オーストリア、日本の順で日本は成熟期に達していない森林が多い。

(参考6) 持続可能な森林経営 (SFM)

持続的森林経営とは

1992年のリオ世界環境サミットでの森林原則声明
に盛り込まれた考え方⇒SFM



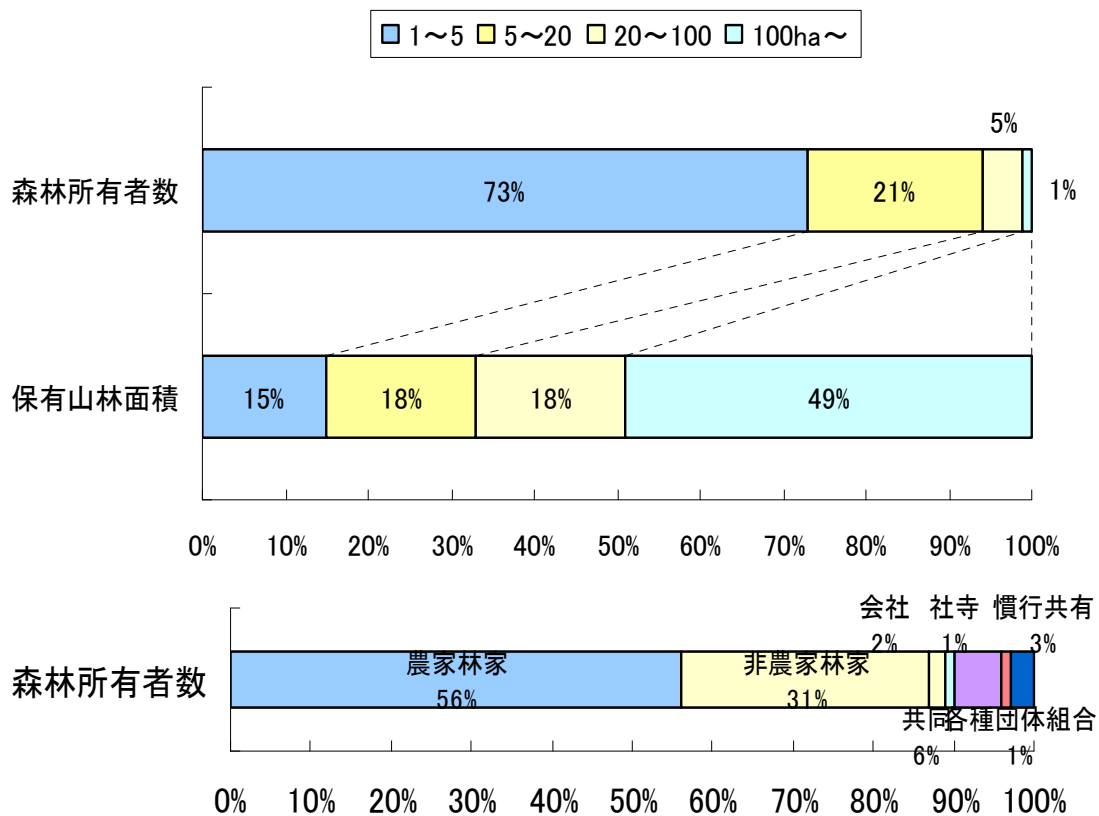
3

(参考7) 国内総生産に占める林業生産の比率(単位:10億円、%)

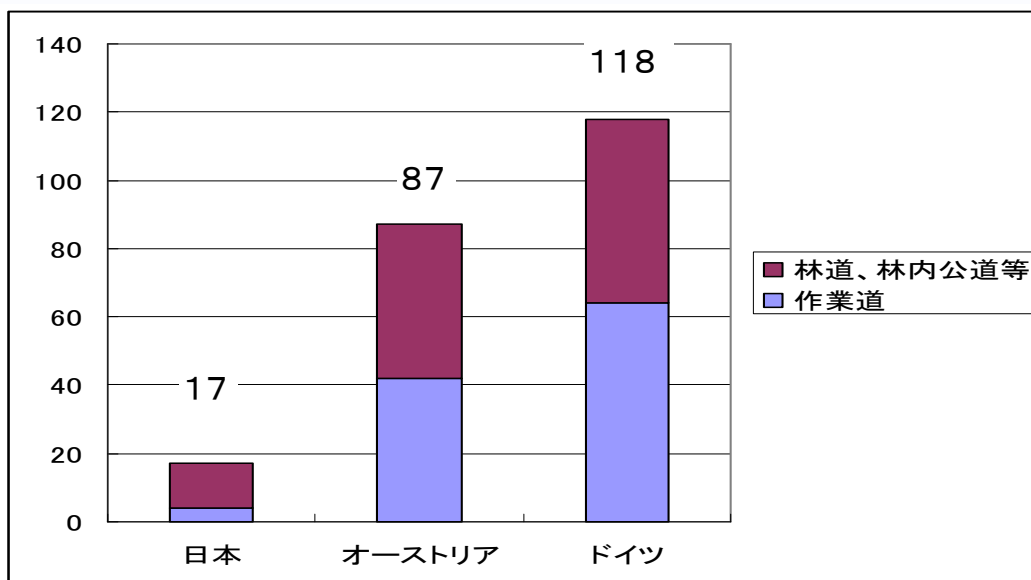
	1955	1965	1975	1980	1990	1995	2005	2007
国内総生産額	8,513	31,254	148,327	240,969	440,125	496,922	501,734	515,805
林業生産額	281	447	716	826	661	696	446	477
比率	3.30	1.43	0.48	0.34	0.15	0.14	0.09	0.09

出典：国民所得統計年報、国民経済計算

(参考8) 民有林の所有面積階別保有山林面積 (出典：森林・林業白書)



(参考9) 林内路網密度の諸外国との比較 (単位：m/ha)



	日本	オーストリア	ドイツ
作業道	4	42	64
林道・林内公道等	13	45	54
合計	17	87	118

出典：林野庁「第1回森林・林業基本政策委員会資料『森林・林業を巡る情勢』（平成22年2月）」

(参考10) 森林組合の概要 (2007年度)

森林組合数	736 組合		
組合員数	159 万人	1 組合当たり	2,172 人
地区内民有林面積	1,583 万 ha		21,569ha
組合員所有森林面積	1,109 万 ha		15,107ha
組合加入率	70%		70%
常勤役員数	465 人		0.6 人
専従職員数	7,201 人		9.8 人
雇用労働者数(現場作業員)	27,245 人		37 人

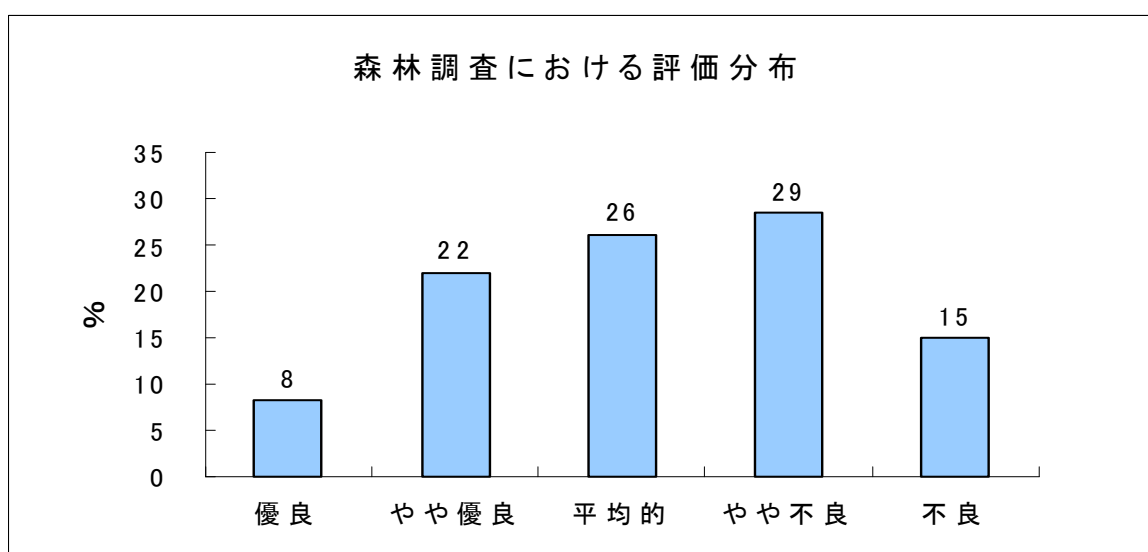
出典：林野庁「平成19年度森林組合統計」

(参考 1 1) 林業就業者数(単位:万人、%)

	1980	1990	1995	2000	2005	2007
就業者総数(A)	5,536	6,429	6,457	6,446	6,356	6,412
林業(B)	19	11	9	7	6	5
(B)／(A)	0.34	0.18	0.14	0.11	0.09	0.08

出典：総務省「労働力調査年報」

(参考 1 2) 過密状態の人工林 (福島県での事例)



評価区分	森林の状態等
優良	40年生ままでに除間伐が適正なされ、なおかつ枝打ちなど施業が行き届き、径級が集中して直径のばらつきがなく、利用間伐を繰り返しても収穫できる美しい林
やや優良	40年生ままでに除間伐がなされ、径級が比較的集中し、直径のばらつきが少なく、利用間伐を繰り返しても収穫できる林
平均	2回以上の除間伐がなされていて、劣勢木間伐を繰り返せば、収穫に値する林木の成立が見込める林で直径のばらつきが少ない
やや不良	1回～2回の除間伐程度で、直径のばらつきが大きく、一度間伐や主伐などの収穫行為を行えば、その次からの成長が見込めない暗い林
不良	植栽時から除間伐がほとんどなされず、列状配置が残り、ツルやコケ類が樹木に絡み付いているような荒廃林で、林木にも曲がりが多く、収穫しても薪かチップにしかならないモヤシ林

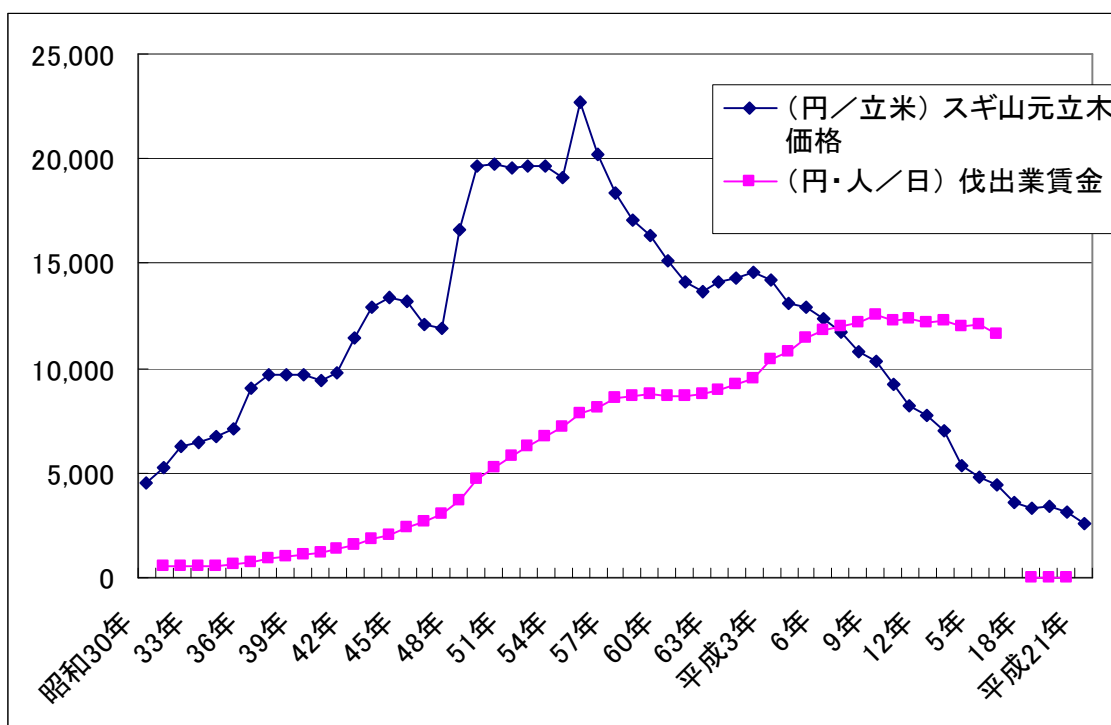
出典：(株)森林再生システム、(株)山田事務所

(参考13) 山元立木価格の推移 (単位:円/m³)

西暦	山元立木価格			西暦	山元立木価格		
	スギ	ヒノキ	マツ		スギ	ヒノキ	マツ
1975	19,726	35,894	10,899	2005	3,628	11,988	2,037
1980	22,707	42,947	11,162	2006	3,332	11,024	1,862
1985	15,156	30,991	7,920	2007	3,369	10,508	1,728
1990	14,595	33,607	7,528	2008	3,164	9,432	1,638
1995	11,730	27,607	5,966	2009	2,548	7,850	1,466
2000	7,794	19,297	4,168				

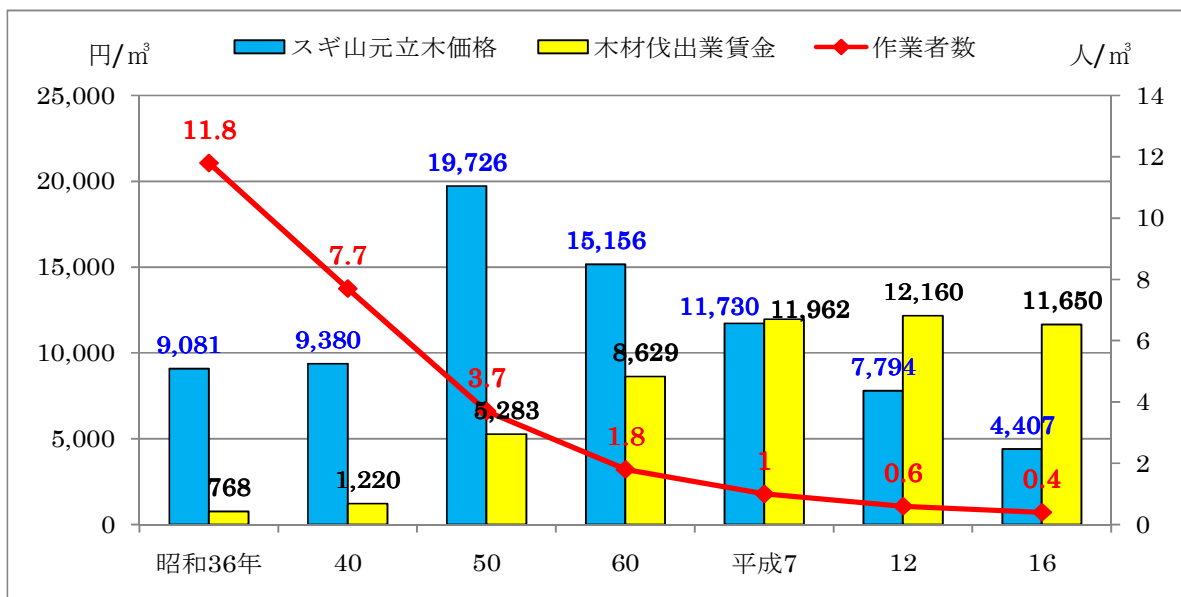
出典：(財)日本不動産研究所「山林素地及び山元立木価格調」
3月末現在数値

(参考14) スギ山元立木価格と伐出業賃金の推移



(注) 平成17年以降の伐出業賃金データは連続性が無いので計上していない。

(参考15) スギ1m³で雇用できる伐木作業員数



出典：厚生労働省「林業労働者職種別賃金調査」、(財)日本不動産研究所「山林素地及び山元立木価格調」

(注) 作業員数は、スギの山元立木価格で何人の伐木作業員が雇用できるか平均賃金で試算したものである。木材伐出業賃金は、「林業労働者職種別賃金調査」における伐木造材作業員、チェーンソー伐木作業員(会社所有)、人力集運材作業員、機械集運材作業員、伐出雑役の5職種の1日当たりの平均賃金である。なお、平成12年調査から調査対象職種について人力集運材作業員を対象外とするとともに機械伐木造材作業員を新たに対象に加えた。

(参考16) 産業別死傷年千人率(休業4日以上)(単位:%、倍)

	1997	2002	2007	2008	2009
全産業(A)	3.2	2.6	2.4	2.3	2.3
林業(B)	28.5	27.7	26.3	29.5	29.3
倍率(B)／(A)	8.9	10.7	11.0	12.8	12.7

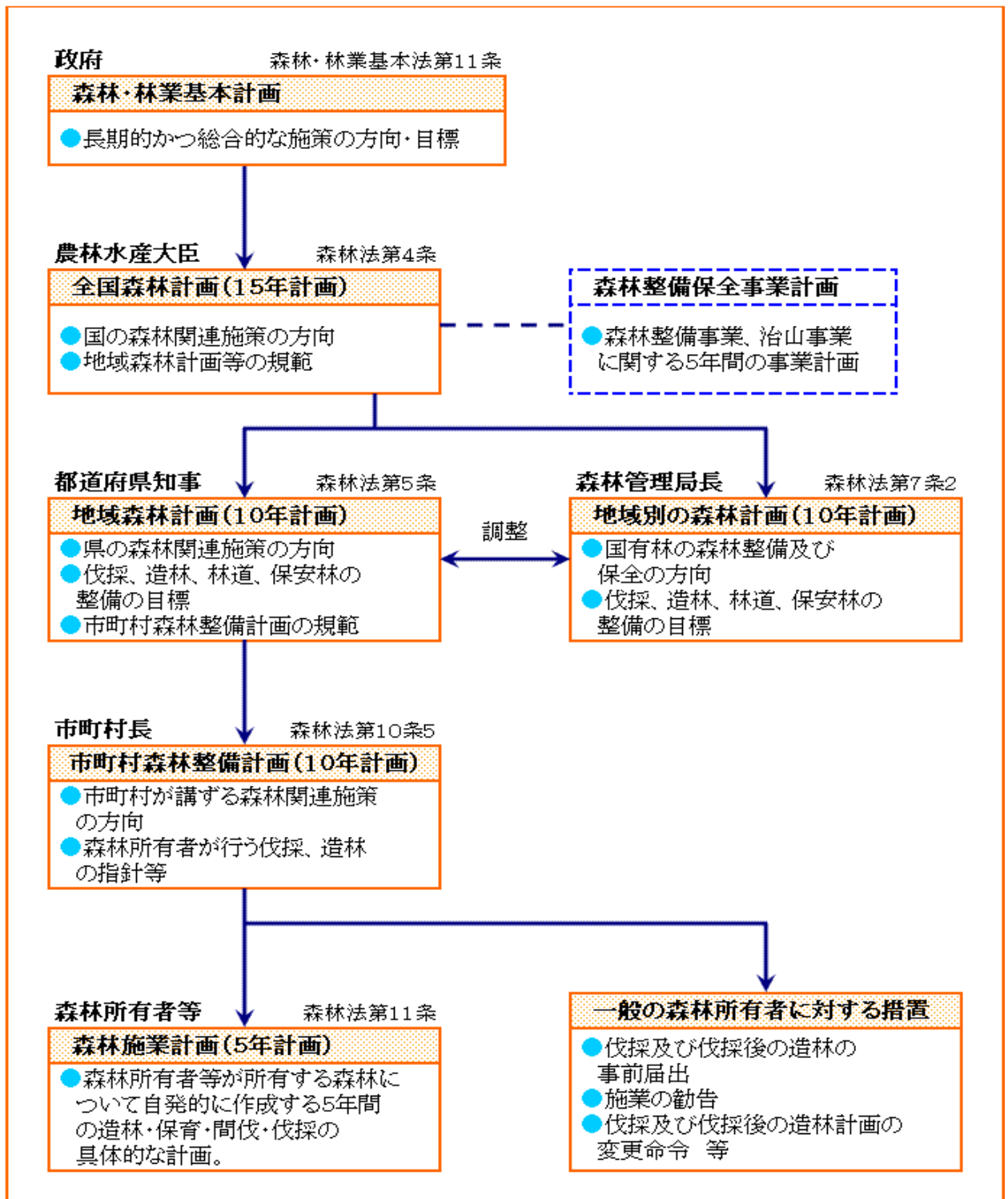
出典：林業・木材製造業労働災害防止協会

(参考17) 森林施業計画認定面積(単位:千ha, %)

	人工林	天然林	合計
私有林面積	7,983	9,429	17,411
認定率	53	34	43

出典：林野庁「第1回森林・林業基本政策委員会資料『森林・林業を巡る情勢』(平成22年2月)

(参考18) 森林計画の体系図 (出典：林野庁ホームページをもとに作成)

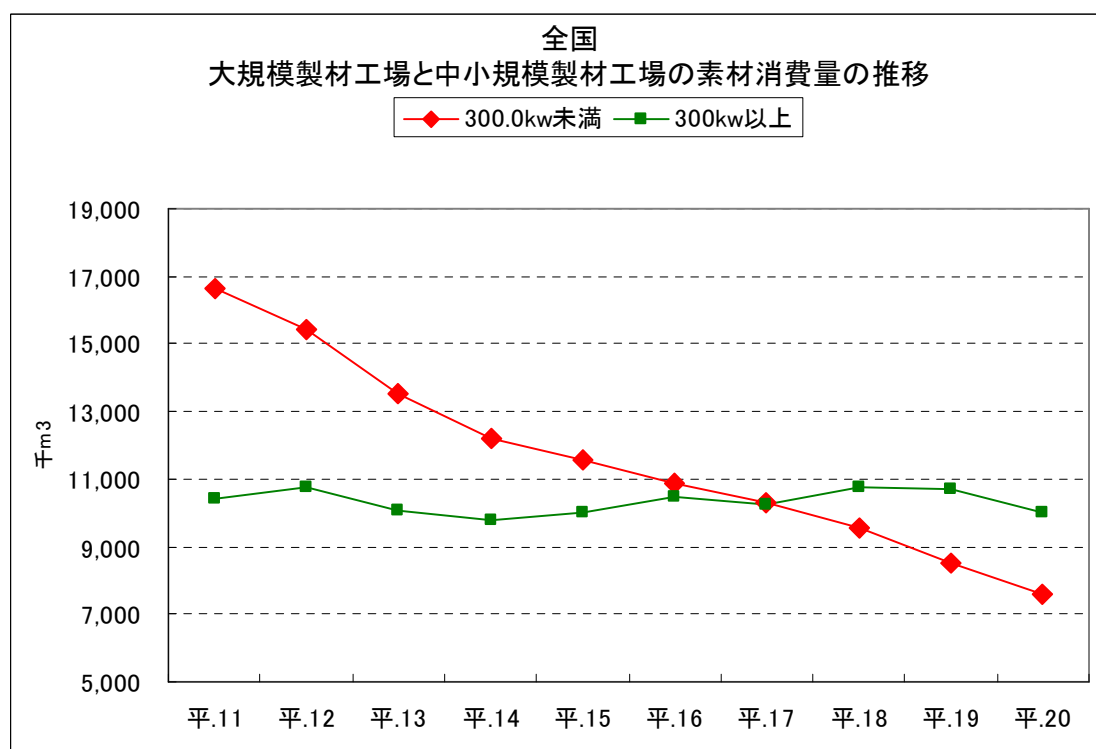


(参考19) 国産材・外材別の用材需給（丸太換算）（単位：千m³、%）

	1990	1995	2000	2005	2009
国産材(A)	29,369	22,916	18,022	17,176	18,626
外材	81,793	89,006	81,241	68,681	63,735
合計 (B)	111,162	111,922	99,263	85,857	82,361
国産材割合 (A)／(B)	26.4	20.5	18.2	20.0	22.6

出典：森林・林業白書

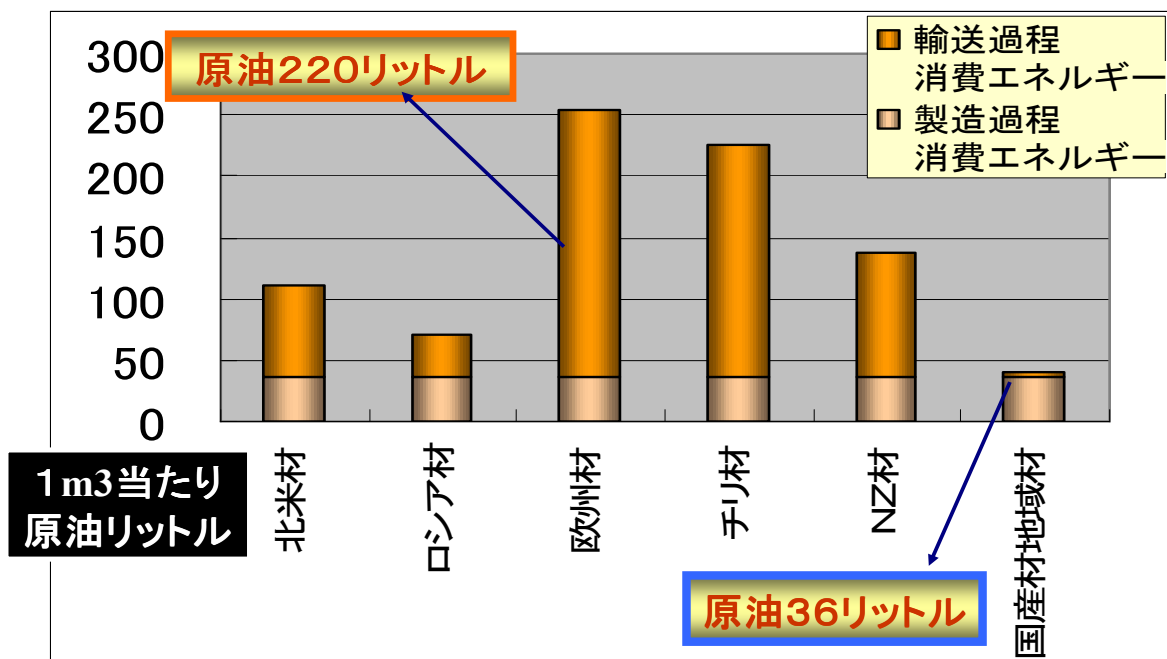
(参考20)



出典：木材需給報告書、木材統計

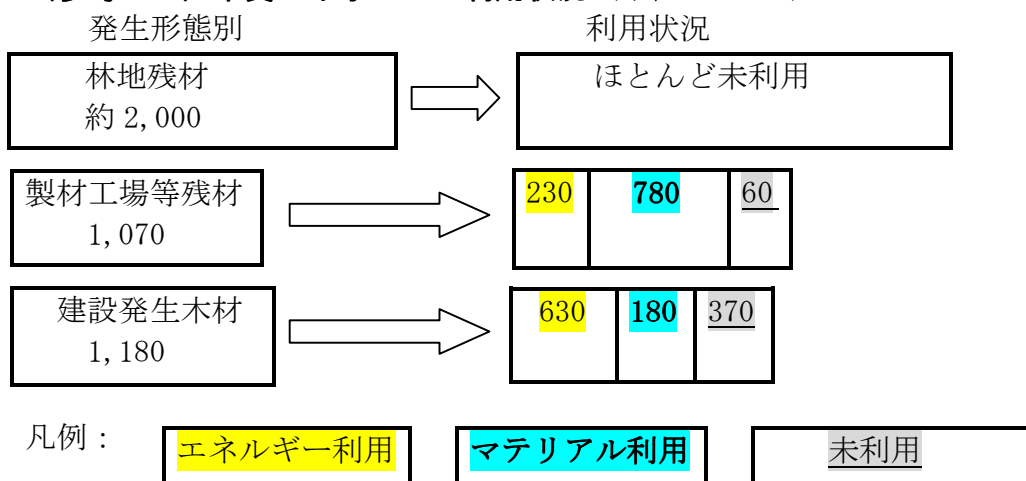
(参考 2 1)

輸入材と地域材のエネルギー問題



出所: 循環社会と輸入木材の輸送過程消費エネルギー「木材工業」vol. 55no6

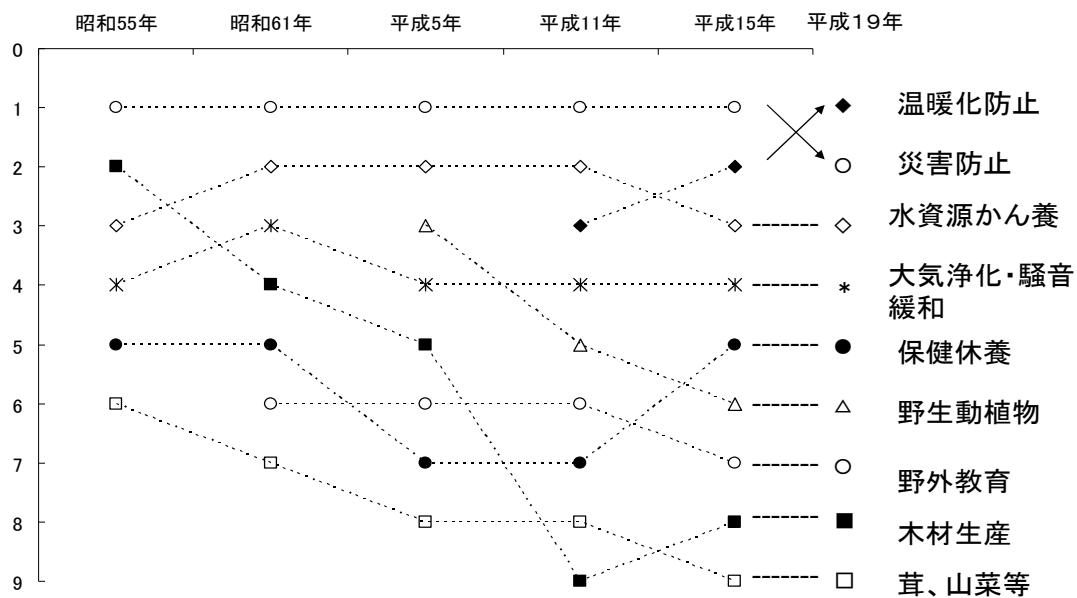
(参考 2 2) 木質バイオマスの利用状況 (単位: 万 m³)



出典: 森林・林業白書

(参考23)

森林に対する国民の期待の推移
(総理府・内閣府調査)



この提言は、(社)日本林業経営者協会が受託した三井物産環境基金の支援による「循環型社会に資する日本型森林管理・経営モデルの構築」の調査研究の一環として、この検討会が取りまとめたものです。